

# 盲ろうの人のことを知ろう

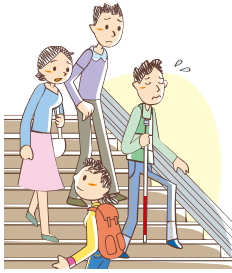
視覚と聴覚の両方に障がいがあることを「盲ろう」といいます。

見え方と聞こえ方を大きく分けると4つのタイプに分かれます。

- ◆全盲ろう～全く見えず、全く聞こえない状態
- ◆弱視ろう～少し見えて、全く聞こえない状態

- ◆全盲難聴～全く見えず、少し聞こえる状態
- ◆弱視難聴～少し見えて、少し聞こえる状態

## こんなことに困っています…



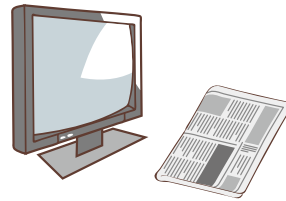
●一人で外出したり、移動することがとても難しいです。

●緊急時・災害時にアナウンスなどの音声情報には気付くことができません。

また、危険な状況も分かり

ません。

白杖を持っていて、声をかけても反応がないときには、手のひらに字を書いて、安全な場所に誘導します。



●新聞、テレビ、パソコンからの情報、周りの状況を知るための音や光も入らない(または入りにくい)です。



事故のため  
しばらく停車  
します



●家族や友人との会話も難しく、気持ちを伝えられないストレスを感じることがあります。

## わたしたちができることは？

◆弱視や難聴の場合、適切な配慮や環境があれば、視覚や聴覚も活用できます。

◆聴力の残っている盲ろうの人に話しかける場合は、向かい側からではなく、聞き取りやすい方の耳に向かって真横から聞き取りやすい大きさ、速さで一語一語はっきりと話すようにしましょう。

◆情報を得るには、活用可能な感覚に応じて、触手話、弱視手話、指点字、点字など、その人に応じた方法で対応しましょう。

◆「触手話も指点字もできないから」と遠慮せず、積極的に話しかける気持ちが大切です。手のひらで文字を書く「書き文字」で会話ができる人もいます。

**触手話**

相手の手話を触って読み取る方法です。また、相手が盲ろうの人の手を取って手話の形を作って伝える方法があります。

**指点字**

盲ろうの人の両手の指(人差し指、中指、薬指)6本を点字の6点に対応させ、通訳者が盲ろうの方の指に打って伝えます。

**書き文字**

盲ろうの人の手のひらに指で直接文字を書きます。